

宮路拓馬 FAX 国会通信

明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。おかげをもちまして、私、宮路拓馬も元気いっぱい平成27年をスタートすることができました。そして、ここに宮路拓馬のFAX国会通信創刊号をお届けできますことを大変うれしく思います。



昨年12月24日初登院の日に国会議事堂前にて

■衆院選、初陣を比例復活で飾る

昨年12月14日に投開票された第47回衆議院総選挙の鹿児島3区において、56,741票をいただき、小選挙区での勝利という所期の目標を達成することはできませんでしたが、九州・沖縄ブロックの比例復活による初当選を果たすことができました。総務省を辞して2週間足らずで衆院選の公示という、大変短い準備期間にもかかわらず、たくさんの皆様にお支えをいただき、12日間の選挙戦（その間、12月6日に誕生日を迎え、35歳になりました。）を戦い抜くことができました。

思い返せば、11月19日に総務省を退官し、同日の最終便で鹿児島に戻って来てから3週間余りの間、名刺・ポスター用の写真撮影から始まり、事務所スタッフ・後援会幹部・各種団体の皆様方への挨拶回り、後援会ごとの選挙対策会議の開催を経て、12月2日の公示日から選挙戦本番に突入。その後は、朝の辻立ち、選挙カーでの遊説、毎晩の個人演説会の開催など、全速力で駆け抜けた選挙戦でした。その間、自民党鹿児島県連の最重点候補としてご指名いただくとともに、公明党のご推薦もいただき、また、安倍総理や小泉進次郎政務官にも応援に駆けつけていただきました。さらには、各種団体の皆様方から多くのご推薦をいただいたほか、後援会、事務所スタッフ、ボランティアの方々など、本当に多くの方々に力強く支えていただいたことに心から感謝申し上げます。

■今後に向けて力強く邁進

小選挙区での勝利という結果を出せなかったことについては、私の不徳の致すところでは、期間が短かったことにより、有権者の方々と直接お会いして「みやじ拓馬」という人間そのものを浸透させることができなかったことをはじめとして、多くの課題もあり、その反省及び結果分析をしっかりと行った上で、今後に向けて力強く進んでまいります。

その上で、国会議員としてのスタート台に立たせていただいたからには、皆様の熱い思いを深く胸に刻み、国政の場において、選挙戦を通じて一貫して訴えてきた「①地方経済の再生、②少子高齢化・人口減少対策、③地域の絆（コミュニティ）の再生・強化」などの政策課題に誠心誠意取り組み、「鹿児島島の創生、元気な日本づくり」に邁進してまいります！皆様の引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

■国会に初登院、バッジを胸に職責の重さを実感

去る12月24日（水）に初登院を果たしました。以下はその日の流れです。

7時20分、議員会館に入り事務所スタッフと打ち合わせの後、初登院のため国会議事堂正面に向かう。8時の開門前から報道各社のインタビューを受ける。開門と同時に中に入り、議事堂前庭で引き続きの取材を受けた後、国会議事堂に入り登院ボタンを押し、国会議員バッジをいただく。改めて職責の重さを実感。

午後からの本会議に先立ち自民党本部で開かれた地方税勉強会と地方創生実行統合本部の会合に出席。「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略」や地方創生関係税制改正について関係省庁から説明を受ける。地方創生は選挙期間中も一貫して訴えてきたテーマであり、しっかり地元の要望も受け止めて対応していきます！

午後1時からの本会議では、議長、副議長の選任などの後、内閣総理大臣指名選挙で第97代内閣総理大臣として安倍晋三自民党総裁を選任。選挙中に応援に駆け付けていただいた時のことを思い出しました。

その後、先の臨時国会会期末に成立した「空家対策特別措置法」（父・和明の最後の仕事）について、国土交通省担当課長などから説明を受ける。この間、空き時間を利用して、かつての職場である総務省や鹿児島県東京事務所などへの挨拶回り。

■衆院本会議場の自席は名誉ある「一丁目一番地」

慣例により、新人議員は最前列に配席され、かつ、年齢順で並びます。私は今回、自民党の初当選組15人中最年少（元自民党幹事長加藤紘一先生の娘・鮎子さんが同級生ですが、私の方が誕生日が遅いのです。）であることから、衆院本会議場の席は、最前列の議長席から向かって右の端「一丁目一番地」と呼ばれている席で、かつては小泉進次郎さんも座っていた席です。法案の採決や総理指名の投票の際、すべての衆院議員が私の席の前を通過して壇上に上がっていくため、先輩議員から「宮路和明先生の息子さんですか。これからしっかり頑張れ！」と声をかけていただきました。

国会の仕事のみならず、税制調査会や農林部会、水産部会など自民党の党務もあり、なかなかお手洗いにも行けないほどの目の回る忙しさですが、皆さまのご期待に応えられるよう、これからも全力で頑張ってまいります！